

令和6年度淀川区区政会議第1回教育・子育て部会議事要旨

日 時：令和6年6月4日（火） 午後6時30分～午後7時45分

場 所：淀川区役所 6階 会議室

出席者：

- ・委員6名（8名中）

梅原委員、亀村委員、佐々木サミュエルズ委員、中村委員、西川委員、齒黒委員

- ・区役所

岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、竹田こども教育担当課長

大西政策企画課長代理、岡田保健福祉課教育支援担当課長代理、山村保健福祉課子育て支援担当課長代理、野崎保健副主幹ほか

内 容：

1. 開 会
2. 令和5年度淀川区運営方針（振返り案）について
3. 区政会議におけるご意見への対応方針について
4. 個別テーマごとの意見交換

資 料：

【当日配付資料】

- ・次第
- ・配布資料一覧
- ・区政会議部会名簿、座席表
- ・（資料3）個別テーマごとの意見交換について
- ・子育てに関する区の取組の周知について
- ・不登校（傾向）の児童・生徒への支援について
- ・よどマガ！6月号
- ・ご意見票
- ・淀川区区政会議 日程調整表
- ・返信用封筒

【事前配付資料】

- ・（資料1）令和5年度淀川区運営方針（振返り案）
- ・（資料2）区政会議におけるご意見への対応方針

1. 開 会

2. 議題

(1) 令和5年度淀川区運営方針（振返り案）について

○令和6年度淀川区運営方針（案）について区役所より説明
意見なし

(2) 区政会議におけるご意見への対応方針について

○区政会議におけるご意見への対応方針について区役所より説明
意見なし

(3) 個別テーマごとの意見交換

・前回の教育・子ども部会において、身近なテーマや御自身が興味を持つテーマについて自由に意見交換をしていただきました。前回の部会において出たテーマをまとめさせていただいたものが、資料3の「個別テーマごとの意見交換について」になります。

教育・子育て部会では、「不登校の問題について」、「ヤングケアラーの問題について」、「子育てに関する区の取組の周知について」、「子どもの居場所について」、「学校でのいじめについて」、「子育てサロンについて」、「子どもの現状の把握について」、「教育に係る学校現場と地域の連携について」、こちらの8つのテーマが挙がっておりました。

前回の部会で、テーマとして挙がった中から、今回は区役所でテーマを決めさせていただき、現在の区役所での取組をお話させていただきます。その後、教育・子ども部会として意見交換をしていただければと思っております。

本日は、「子育てに関する区の取組の周知について」と「不登校の問題について」の2つを区役所の担当課から続けてお話させていただきます。

子どもを取り巻く課題は、不登校やいじめ、学力や体力の低下、貧困、児童虐待など、複雑化・多様化しています。子育て世帯に向けた取組の周知や、不登校児童・生徒への支援の取組を聞いていただき、部会委員全員で意見交換をお願いします。（大西政策企画課長代理）

○担当より「子育てに関する区の取組の周知」及び「不登校の問題」について説明

主な討議内容

- ・区民アンケートなんですけども、「淀川区は安心して子育てしやすい環境である」というところの「そう思う」「思わない」とかいう回答の数値が出ておりますけども、この質問っていうのは答えにくくはないんですかね、漠然っていうか。子育てしやすいですか、しやすくないですかっていうような回答を求めるようなアンケートですよ。（梅原議長）

⇒これから、今、国も挙げて子育て層あるいはこれから子育てをされる層の支援が必要だということもされている中で、これから子育てをしようと思ってる層の方、今、子どもはいないけど、これから子どもを持とうかなと思っておられる方が淀川区もこんなことやってるんだなというのを知ってもらったら、安心して子育てができるかな、淀川区でしばらく住もうかなみたいなのも思っていたるんじゃないかなというのもある、こういう漠然とした質問もあるのが一つなんですけれども、実は令和5年度はなかったかと思うんですけれども、今回は無作為で18歳以上。上は多分切りがないまで無作為で送ってるんですけど、もう1つ子育て層のもうちょっと若い方に絞ったアンケートというのやった年もあったりしましたので、そこは必要に応じてまたバリエーションがあつていいのかなと思います。（竹田こども教育担当課長）

- ・先ほど御説明をいただいて、母子手帳を渡していただくときとか8か月のときとかというふうにおっしゃったんですけども、妊娠していらっしゃるお母さんたちが一番回数多く会う人たちは、病院の先生、それから助産院の方とかが妊婦さんの一番近いところで、いろんな悩みとか相談事に寄り添っておられると思うんです。もう私も子どもたちが大きくなってしまって中高生なので、自分のときとは違ふだろうなと思うんですが、やっぱり餅は餅屋に聞くというか、助産院さんのほうにこの質問を投げかけてみたりとか、市民病院も淀川区にはありますから、そういうところで勤務されていて、日々妊婦さんに会っておられる方とかにこの質問自体を投げかけてみられたら、より具体的な回答が得られるのかなと思いました。（佐々木サミュエルズ委員）

⇒助産師につきましては、年1回助産師さんとの連絡会を実施させていただいておりまして、やはりその時々で情報が変わってきますので、新しい情報をお伝えしたりとか、現場に行つてじかにその相を受けていらっしゃる方々なので、今のお母様方の状況はどうなのかっていうのを教えていただいたりとかしております。

こども教育担当のほうで、支援MAPという地図みたいな形で、こういうところにサロンがありますとか、こういったところに相談機関がありま

す、小児科さんがありますといったものをこども教育担当でつくって提供いただいているので、それをまた助産師さんのほうに提供して、視覚的に確認できるもので御説明するほうが分かりよいと思いますので、そういった形で助産師さん方が使えるものを我々が提供したりとか、そういった形でさせていただいているところです。

病院につきましては、昨年、十三市民病院の産科の看護師さんと連絡会を実施しています。ただ全数の区内の産科さん、個人病院とかまだ実施できていない状況もありますので、今は十三市民病院だけなんですけども、何らかの形でそういったこともちょっと検討してみたいと思っております。（野崎保健副主幹）

- ・妊娠の時代から出産後の訪問や出産の応援金や出産後の訪問もたくさんあるとお聞きしてはいますが、実質産んでから後のほうが大変なのはもう皆さん御存じのとおりです。

結局子どもを育てていくのに対して、子育てサロンの活用というのもたくさん前の会議のときもあったと思うんですけど、やっぱり先ほどもおっしゃったとおり、ネットに弱い方、強い方があるので、もうちょっと、年間数回保健師さんに来ていただいているんですし、日程的なこともお教えいただいて、うちの地域では回覧も回そうじゃないかという話が出てくるんです。そしたら普通に子育てだけで来てる、遊ばせるだけというのではなくて、もっと悩みのある方御相談したい方ってたくさんもっと出てくると思うんですよ。ですから、そういうことももっと活用していただいたらいいかなあと思うし、それと一番最初にあった盛り込みすぎないチラシ、そういうものをちょっと区役所のほうからいただいて、各地域にこういうのやっていますというのを伝えることが必要だと思います。

（中村委員）

⇒地域ごとに担当の保健師が決まっております、子育てサロンに行かせていただいている地域、まだ行かせていただけてない地域、いろいろあるんですけども、ぜひとも保健師が行かせていただいて、サロンからチラシを頂戴をしてる地域もあるんですけども、その頂いたチラシを担当の保健師が対象の方に渡すとか、そういった形でさせていただければと思っていて、去年もさせていただいたと思うんですけども、そういった形で展開をさせていただければなあと思っております。

やはりいろんな選べるものがあるって、その中で御自身が行けるところを選んでいただくということが大事だと思うんですけども、そのためにいろんなところを御紹介できないと、ここしかないとかいうのであれば、なかなか行きにくいなあというところもございますので、そういった形で

地域のサロンも含めて、いろんな支援センター、子育てプラザもいろいろございますので、区役所のそういった集いも合わせて必要な方にそういう情報を渡せるような工夫も考えていきたいと思っております。（野崎保健副主幹）

- ・淀川区のホームページで「子育てと教育」情報というひとまとめ掲載していますというQRコードも貼り付けていただいていたので、今ちょっと見てみたんですけども、入り口としてすごく分かりやすく見出しつけていただいているかなと思うんですが、例えば、小さいお子さんを今育てておられるお母さんお父さんが欲しい情報、例えば、赤ちゃん関係の支援情報とかに何かすぐに見える範囲で飛べないなとか、そういう情報が載ってないなとかというのもあるんで、これからどんどんと内容というのはアップデートされていかれるとは思いますが、もっと簡単にアクセス、たどり着けるようにしてほしいです。（齒黒委員）

- ・大阪市のLINE公式アカウントの令和5年11月からかなりの人数が登録されておられます。この人数は分からないですか。（梅原議長）

⇒区役所ではこのシステムの運営を直接やっておらず、何人かが分からないんですけど、数は分かり次第調べておきます。もし興味があれば登録していただきたいです。大阪市から一方的に情報をいろいろ送らせていただくものなんですけども、例えばそこで、どこの区のものが欲しいですかみたいな選んで、その淀川区だったら淀川区で、さらにその中で子育てが欲しいとか、防災の情報が欲しいとか、幾つか選べるようなので、全然興味のないものが来るのではなく、最初にこの地域のこの情報が欲しいっていうのを絞った上で情報が届くシステムです。（竹田こども教育担当課長）

- ・今年度から小学校の集団登校っていうのがなくなったと聞いています。友達同士とかの呼びかけで、呼びかけ合って登校するということに変わっていったようです。

集団登校がなくなって、友達とかとの呼びかけ合いで行くというのは、不登校者の支援から考えるとすごく逆行してないかなっていうのがありまして、学校で友達がいないとか、いろんな問題を抱えている子はいらっしゃると思うんですけども、仮にその友達がいないとかっていう子になると、その同級生の中に友達いないと、今度また同級生は関係ないですかね。

呼びかけ合って登校できなくなるとか、独りで登校しないといけないとか、そうなってくると、やっぱり学校行きたくないなって思ってしまうことにつながらないかなっていうふうに思っていて、多分これ教育委員

会とかそちらのほうの施策だとは思いますが、その辺の連携を区としてどのような形で考えておられるのかなあというのを伺いたいと思います。(齒黒委員)

⇒集団登校については、各地域でやっておられるところとやってもらえないところがあるとお聞きしているんですけども、役所が例えば誰かを派遣してやってるというのが基本なくて、じゃあ学校が管理するかっていうことになると、学校は学校の中を管理しているので、学校外は基本的に地域の方の取組でしていただいているとお聞きしています。

なので、何々君行きましょうかみたいになっても、実はその子と反りが合わない子に迎えに来られたら、行くのが嫌だなみたいな、もしかしたらそんな子もいるかも分からないっていうのはあるのかなと思うんですけども。やはり集団登校があるほうが、行きやすいんじゃないかなあという感じなんでしょうか。(竹田こども教育担当課長)

- ・不登校を防ぐというか、不登校になってしまうかもしれない子どもたち、それから不登校ぎみの子どもたちをどうやって学校に来てもらえるかっていうことの中で、別室登校支援というのが効果的だなあというふうに思っています。それは、今大学生の子どもたちとか、高校生の子どもたちに、私、中学校の給食のボランティアをもう10年ぐらいさせていただいているんですけども、その別室登校がなかった頃の子どもたちは、もう教室の中にいるか、保健室も30分しかいられないとか決まっていたりすると、もういるところがなく漏れなく不登校になっていたんですが、去年ぐらいからうちの子の中学校さんは、PCルームみたいな部屋で、もう今1人1台タブレットを配られたということで、一部屋空きましたということで片づけていただいて、別室登校の部屋、学習室という名前にしていますけど、そういう取組みをされました。(佐々木サミュエルズ委員)

- ・枚方市では昔から「こころの教室」という言い方をされてたんだと思うんですけども、授業がしんどくなった子どもたちが、不登校でなくてもちょっと一息つける教室っていうところがあったというふうに聞いています。今もあるかどうかは知らないです。結構前の話なんですけれども。そういうところがあったらいいのではないかというふうに発言させていただいたこともあったんですけど、今、実際に我が子が行ってる中学校さんでは、別室登校用のお部屋もつくってますし、母校の小学校さんでもそういうお部屋を今整備されているというふうに聞いていて、非常に有効だなと思ってます。まさに私の2人目の子どもがその利用者で、それがなかったら間違いなくずっと家にいると思います。

ただ別室があるのはすごくいいことなんですけれども、そこにお金をつけていかないと、子どもたちがその箱の中にいるだけでは、子どもたちの安全も確保できませんし、それから学習権の保障もできないなっていうふうに思っているところです。(佐々木サミュエルズ委員)

⇒先ほど御紹介させていただいた不登校児童・生徒支援事業というのが、既に別室の用意できる空き教室があつてとか、やっておられる学校さんはちょっとピックアップしてモデル事業やってみないかということで、お声がけをさせてもらっているのがあります。

もう一方で、これは区役所独自の事業なんですけれども。教育委員会でも、こちらもあつちはもう全部24区なので、さらにもまたちょっと絞ったモデル校で、スペシャルサポートルームという制度が今年度からモデルで実施されてて、別室をしつらえたり、人を配置して、別室登校する子どもさんをケアするとかいう制度も始まっていて、今も各区ともモデルでやっているんで、ぜひそれは私たちの独自の事業のよかったところがあつたら、教育委員会にもこんないいネタがあるからこれ使ってほしいとかみたいなのは紹介していきたいなあと思っております。今はまだ別室登校ができていない学校も、物理的にできないところはどうしようもないと思うんですけれども、そういうお声があつたということはまた各学校にもお伝えしていければいいのではないかと思います。(竹田こども教育担当課長)